

ゼニガタアザラシの生態

資料1-2

【分布】

太平洋・大西洋の北部沿岸域に広く分布。
北海道に生息する亜種はアリューシャン列島
から襟裳岬の沿岸に分布。



【生態】

- ・一年中沿岸域に生息し、岩礁上で出産。
- ・北海道における主要な繁殖場は、襟裳岬と大黒島
- ・主にミズダコ、スルメイカや沿岸の底生魚類を捕食する。

北海道におけるゼニガタアザラシの上陸場の分布

【全道の生息状況】

1940年代：1,500頭程度（推定）⇒1970年代：400頭未満

※乱獲や沿岸生息環境の悪化

⇒近年の最大上陸頭数：1,089頭（2008年）

えいものゼニガタアザラシ

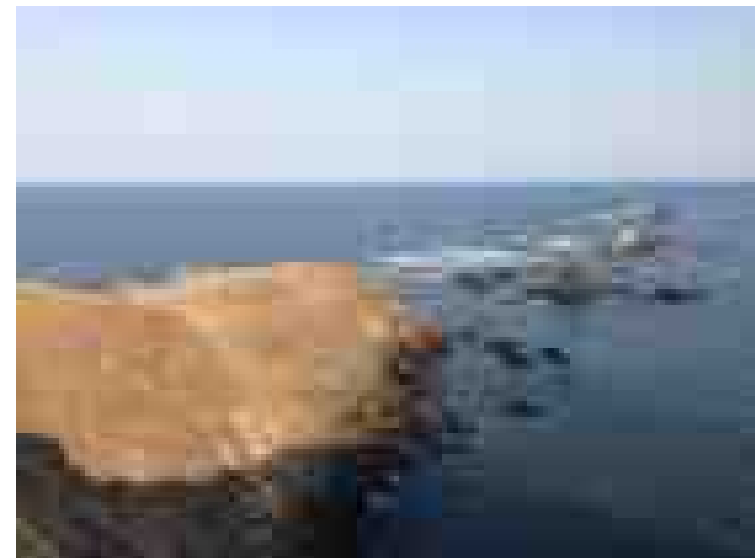
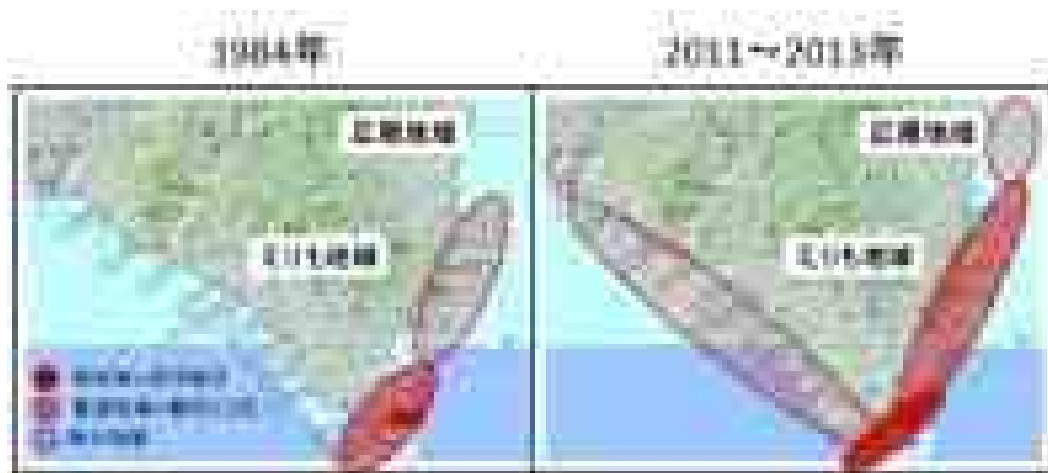
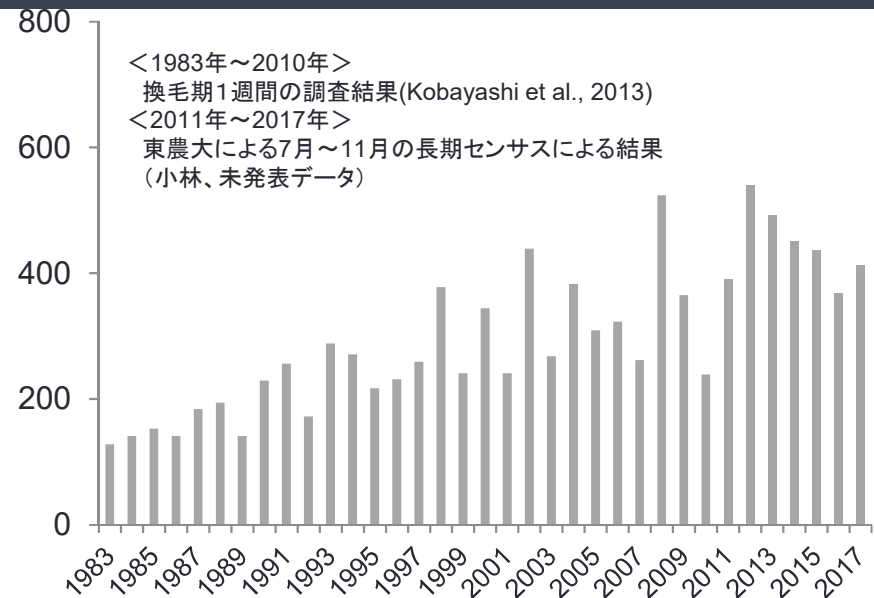
【襟裳岬の最大上陸頭数】

1970年代に約150頭

⇒現在400～600頭

⇒推定生息数：概ね1,000頭

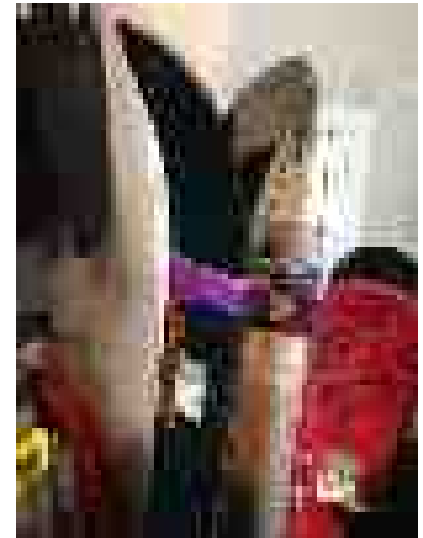
個体数増加に伴い、漁業被害が深刻
(特にサケ定置網漁、タコ漁)



ゼニガタアザラシと地域、保護管理の動き

【かつての利用】

毛皮（シールなど）、肉（食用）、脂肪を利用。
⇒1990年代以降は全く捕獲されなくなる。



【生態調査・保護管理の動き】

1970年代～：調査・天然記念物指定に向けた活動

1980年代～：ゼニガタアザラシ研究グループによる調査

2000年代～：農大・環境省等による調査、試験捕獲の動き

【地域における活動】

1990年：ERIMO・SEAL・CLUB設立

被害調査・防除・生態調査普及啓発など



存続可能性評価の結果

【ゼニガタアザラシ科学委員会】

★個体群のシミュレーションを実施

- ・1974年以降の長期的な個体数観測
- ・近年の詳細な個体数調査
- ・ヘリセンサスや発信機を用いた調査 等



リスク評価のシミュレーションにより、えりも地域の個体群は、疫病の発生等の不確実性を考慮しても、今後100年間における絶滅確率が10%以上にはならないことが示された。

絶滅危惧Ⅱ類の評価基準(E基準)

【レッドリスト検討会】(平成27年)

絶滅の危険度の再評価がなされ、**準絶滅危惧**と判定

制度上の位置づけ

希少鳥獣

【鳥獣保護管理法：対象種全ての捕獲を規制】

- ・平成14年の法改正：法の対象に（希少鳥獣に指定）
- ・平成26年の法改正：特定希少鳥獣管理計画制度の創設
- ・平成28年3月

「えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画」策定

- ・平成28年度～管理計画に基づき個体群管理（捕獲）実施

捕獲数：平成28年 48頭（当初目安100頭）

平成29年 137頭（当初目安140頭）

（平成30年目安 140頭）

（参考）平成26年4月：えりも自然保護官事務所設置

保護管理の枠組み

計画

平成26年度～27年度
環境省えりも地域ゼニガタアザラシ
保護管理計画

平成28年度～30年度
えりも地域ゼニガタアザラシ
特定希少鳥獣管理計画

目的

えりも地域におけるゼニガタアザラシ個体群と漁業を含む地域社会との共存

個体群管理の目標

個体群の存続可能性評価

持続可能な個体群の維持と
被害軽減に向けた管理

個体群の状態・被害状況等のモニタリング

被害防除の目標

漁網改良手法の検討・試験
忌避音波の検討 等

効果的な手法のさらなる改良
忌避音波の装置化・設置試験 等

生息環境・地域社会

アザラシの生息環境に関する情報の収集
観光や教育への活用等の地域社会との関わりの検討